



胸から胸へ 教えを伝え弘めよう

5月大教会教会長会議
立教189年5月22日
大教会長 片山幹太

本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321 (代)
本島通信編集室 R260524-0527-12
奈良県天理市指柳町270-1
本島誌所 〒632-0093
電話 0743-63-1571 (呼)

https://www.honjima.com
Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間
【6月1日～8月31日】
朝づとめ 午前6時00分
夕づとめ 午後7時00分

手や指でハートを形作る「ハートポーズ」。あれは日本だけの文化かと思っていたら、オリンピックでは世界中の人がメダル取った後、同じようにしているのを見かけました。インタビュアーでは、いろんな人に感謝を込めて「あなたのおかげです。ありがとうございます」と手でハートポーズをするのです。



あれを見て気づいたことは、頭上から発信している人は誰もなく、みな胸の前辺りでハートを作るのですね。私たちの信仰初代はみな、不思議なご守護、めずらしいすけにより親神様を信じ、親心を感じ、目的を知り、ご恩報じのためおたすけに勇み立って歩まれました。そして歩まれて何をされたのか。胸から胸へ、この有難い教えを伝え弘めてくださった。そのおかげで講を結び、さらに教会のお許しを戴いた。というのが一般的な流れではないかと思えます。

最初のめずらしいすけと、お許しを戴いて教会になる。この最初と教会設立は親神様のお働きによるものですが、その間の人だすけに勇み立つところ、そして胸から胸へ伝え弘めるところは、私たちの働く場所であると思えます。

ですから、親神様に働いていただくところ、私たちが務めるところを仕分けて、「人から人へ」「胸から胸へ」一対一のおたすけ活動を一生懸命努めさせていただいたらありがたいのではないかと思う次第です。

本年3月28日の「教祖140年祭 学生おちばがえり大会」の冒頭、真柱様

(文責・本島通信編集室)

本島大教会 重点活動項目(立教百八十九年)

- ・ 少年会本島団第三十六回おつとめ総会(詰所) 7月26日
- ・ 本島大教会四代会長片山昇四十年祭(大教会) 10月21日
- ・ 第三十一回女子青年大会(本部) 11月1日

「真にたすかるこの道を、 共に歩もう」

なかやましようきち
本部学生担当委員長 中山祥吉先生

本日は本島大教会5月の月次祭、誠におめでとうございます。また祭典後の貴重なお時間を頂戴いたしまして、本日は「学生層育成者講習会」を開催していただきまして、誠にありがとうございます。

まずお話に入る前に、お礼を申し上げます。ありがとうございます。

私は福山市にある本部直属あきよ



志分教会の3代会長を勤めさせていただいております。私が中学3年生のとき、現在の所在地に移転したとき、本島大教会の皆さまが大勢ひのきしんに来てくださいました。私も鮮明に覚えております。大変ありがたいことでした。

そして現在私は本部学生担当委員会の委員長も勤めさせていただいております。学生生徒修養会とか、春の学生おちばがえりなど、学生の丹精についていろいろ企画をさせていただくのですが、本島大教会から毎年多くのスタッフを派遣していただいております。

学生と接する人たちに信仰心がなければ、どれだけ良いプログラムを作っても、学生に信仰は伝わりません。本島大教会の皆さまのおかげで

多くの学生が育ってくれております。心からお礼を申し上げます。

さて自己紹介をさせていただきます。中山祥吉と申します。妻と8人の子どもが…あ、ありがとうございます。妻がすごいんですね。本当によくやってくれております。子どもは一番上が26歳、一番下が小学2年生になります。高校生も大学生もいますので、だから学生層の話をするんだねと思われるかもしれません。

今日のお話は先生方の周りにいる学生はもちろんなのですが、できれば20代の社会に出ている若者、最近声を掛けてもなかなかこっち向かないんだよな、という人の顔も思い浮かべながら聞いていただきたいのです。

自己紹介ついでに、私の父は中山慶純といいます。数年前に、この大教会でお話させていただいたと聞いております(註・立教174年・立教180年春季大祭神慶講話。「朝の信仰読本」という本も出しまして、とてもよく売れました。ありがとうございます)。

相手に興味をもつこと

その父が今年81歳になりました。一昨年に心筋梗塞を患い、カテーテ

ルを用いてステント治療をしました。しばらくして、思いのほか元気になった父は「話のネタもできたんや」と言います。何だろうと尋ねたら「家庭を照らすカテーテル」ってええやろ」って。もう親父ギャグでしかないのですが、そんな父のもとで育っていますので、お許しいただきながら聞いていただけたらと思います。

その父は大学4年生になった私の娘と詰所で暮らしております。ある日、詰所で父と私と娘の3人で食事をしていたときのことです。父が孫の手を見て「おー、今度のマニキュアは大人っぽいね」と言うのです。気づきますか？ 私は一切気がつきませんでした。私の父は孫娘の爪を見て気づくのですね。娘も嬉しそうに「いいでしょう」と言い「次、どんな色にするか悩んでいるんだよね」みたいな話を父とするのは、私は「へー」と思っただけです。

すると次に、「おお、今度、そう言えば『めめ』が主役するらしいな」と言ったのです。「めめ」って知っていますか？ 目黒蓮というアイドル歌手で俳優です。そのときは「silent」という、だんだん耳が聞こえなくなっていくという主人公を

「めめ」がやっていたのですね。

「耳が聞こえなくなるって大変やろな。でも、周りにいる人たちに支えてもらって。でもあー、どうか」という話を孫とするんですね。それは単なる家族会話かと言われると実はそうでもないです。ちょっとしたドラマの話。父は好きで見ているというより、今の若い子が何に興味を持っているのかを知ろうとしているのですね。

自分が興味をもっていることに相手も同じように興味をもってくれると、会話が弾みます。会話が弾むと、今度はこっちの言おうとすることも伝わっていくのです。

どうしても大人になると、若い人に対して「あれを言うてやらねばならん」「これも伝えなくては」と思ってしまうがちですが、そうではなく、まず相手が今、何に興味を持っているのか。たとえば20代の若者もどんな思いで今を歩んでいるのか、こちらがまずは興味を持つことから始めなければならぬということ、81歳になる父から教えてもらっています。

では次に、話が少しでもできるようになったら、何を伝えたら良いのでしょうか。私は「喜び方」だと思って

います。

喜び方を伝える

この春の学生生徒修養会で、ある看護師免許をもった30代の女性が救護ひのきしんに来てくれました。彼女は「私はこのお道の信仰の代を重ねている人が本当にうらやましいです」と言われるのです。その女性は信仰初代なのです。なぜそう思うのか。

その女性は病状の重い患者さん方の病棟で看護師をされています。患者さんの中には、病気になったことを憂い嘆き、人生を諦めたり、中には原因を他人や社会のせいにする人がいる。「しかし、お道の方は違いますよね」と言うのです。

お道の教えでは、その身上や事情が親神様からのどんなメッセージなんだらう、これをどう受け取らせていたどうか。どう親孝行へとつなげていこうか。そんな話が出る。「私はそれが羨ましくしょうがないんです」と言うのです。「私もこの信仰に引き寄せていただいて、ありがたいと思っておりますが、さらに代を重ねられる信仰にしたいです」とも言ってくれました。

振り返ると私も信仰の代を重ねているおかげで体験させていただいた話がありました。

先ほど私、8人の子どもがいると言いましたが、妻が2人目を妊娠したとき、医師から呼び出され、「あなたの奥様は『特発性血小板減少性紫斑病(免疫性血小板減少症)』という病気です」と言われ、緊急入院することにになりました。要するに免疫の異常により血液中の血小板が減少して、出血しやすくなる疾患です。

女性の方はすぐピンとくると思いますが、出産のとき必ず出血がともないです。血小板が少ないとは、命に関わることになるのです。私は頭が真っ白になり、どうしたらいいのか、と思っておりました。

数日経って、血清剤のおかげもあって退院することができました。いつものように家族で食卓を囲み、食事が終わった後、母がいつもの薬を出してきました。母は膠原病こうげんびょうで、食事の後たくさん薬を飲むのです。私は幼いころ、子ども心に「ラムネ食べてんだ、いいな」と思っていましたけれど、それぐらい服用するのです。

すると妻がそれを見て、「あ、お

母さん、私同じ薬です」と言うのです。

実は膠原病も特発性紫斑病も、どちらも難病指定の身上で、理由が分からない。どちらも免疫や血小板を異物と勘違いした抗体が自分の身体を攻撃するという病気なんです。

そのような時を見た時、私はガーンとした。そして「これが因縁か」と思いました。

実は私の母が膠原病になったのは、私を妊娠してしばらくしてからなのです。さらに私には5つ上に死産だった姉がいるのです。ですから私は2人目。私の妻も2人目のタイミングでの身上です。母と妻には血縁関係はないのに、2人目の妊娠で同じ薬を飲んでいる事実、疑いもなく「ああ、これが因縁なのか」と深く心に思いました。

これをどのように悟ったらよいのでしょうか。

私の母は祖母から「火と水とが一の神と教えられる。血の身上は一番の神様に恩返ししなさいということ。我が家の恩返しは何か。それは人たすけしかないんだよ」と言われたそうです。

そうか。あきよ志分教会に道をつけてくれた祖父母があつて、今があ

る。私たちはそこにあぐらをかいていてはダメなんだということを悟ることができました。しっかり人だすけのご恩返しをさせていただこうと、夫婦で話し合いました。

先ほど学修で「代を重ねるって羨ましいですね」と言ったその女性は、そのことを指していると思うのです。私は「喜び方」と申ししていますが、喜び方を次の代につないでいくに当たって、たすけていただいた話はずるけれども、そのときにどんな心になったのか、という話もしていただきたいと思うのです。武勇伝は必要ないです。そのときだけ葛藤し、どれだけ嘆き悲しんだのかという心も全部伝えていただきたい。これが私たちの役割だと思っています。

おたすけに巻き込む

ポイント二つ目は「おたすけに巻き込む」です。

そこで私が実践している些細なことをお話させていただきます。

私が講社祭に行きますと、おじいちゃんだけでなく、孫も出てきてくれます。その子が小さいときから出

てきてくれるのですが、今は社会人になって一人暮らしをするようになってからも講社祭には来てくれるのです。それには一つ理由があります。

それはその子がまだ小さい頃、講社祭で次のようなお話を言ってきました。「講社祭では、お扉を開くでしょう。こっちの願いごとを一番ストレートに神様が聞いてくださる日だよ。日ごろはお礼をするけど、今日はお礼だけじゃなくて、お願いもしてみよう。自分のお願いだけじゃなくて、人様のたすかりも一緒にお願いしようね」と言います。

その子が知っている人だけでなく、知らない人のことでも私は言います。たとえばコロナ禍で出会った人が入院しました。全治2ヶ月と言われたのに、6ヶ月経っても退院できない。その人のことをその子に伝えて「今、会長さんは、おさづけ取次ぎに行きたくてもコロナで行けないんだ。だから一緒にお願いでいいですか?」と言いますと、素直に一緒にしてくれます。

難しいことではありません。そこには肝が二つあります。お願いだけじゃだめです。次の月に行ったとき、経過を報告してあげてください。「あ

のお願いしてくれた人、まだリハビリまで行ってないのよ。まだ痛いって言っているから今月もお願いな」と。次の月「やっとリハビリ始まったんだって」と言ったら、我がことのように喜んでですよ。

これは小さい子だからというより、大きくなった人にも言っていると思います。

二つ目の肝は、こっちが頭を下げることです。「一緒にお願いでいいか」と。

百回「信仰しなさい」と言うより、1回一緒にお願いがとめをする行為の方が、よっぽど信仰が伝わると思えます。そしてこちらが真剣に神様におもたれし、お願いしている姿を見てもらって伝わるのがおたすけの姿だと思えます。ですからおたすけの場を積極的に増やしましょう。そして若い人を巻き込んでください。肝は二つ、経過報告とこっちが頭を下げてお願いするということです。

第三者の声を

三つ目のポイントは「第三者の声」です。

私は父のことを尊敬しておりますが、大学1年生まではそうでもあり

ませんでした。親子ということもありませんし、父のことをあまり知らなかったこともあります。

大学1年生で教会に帰省したとき、部内教会の信者さんから、「あなたのお父さんにたすけてもらったのよ」という方がいて、父が信者さんにどう接しているのか初めて知りました。また本部勤務者の知り合いから「あなたのお父さんが勤務場所に来てくれたら、その場所がふわっと明るい空気になって、みんな勇んでつとめができるのよ」と言われたときも「ええ、そうなんですか」と初めて知りました。

もしあのときの信者さんや本部勤務者から父の話を聞かなかつたら、お道のこと好きだけど、自分自身がやっついこうとは思えなかつたかもしれない。第三者の声を聞いて、大学2年生のときに初めて父と向かい合って信仰談義をしたのです。父は逃げることなく向き合ってくれました。言葉数は少ないけれど、「そっか、うちの父はそんな思いであきよ志分教会を、またこの信仰をしていんだな」ということを知ったのです。そう考えると、第三者の声はとて必要なのです。自分の息子や孫に

どれほど信仰の話をしていらいっしやいますか。自分の子や孫ってしづらくないですか。私はこの教えは慎ましやかな教えだと思のです。自分のおたすけ話とか、あまりしませんね。そこを第三者から伝えていたきたいのです。今の子どもたち、自分の父や母、お祖父さん、お祖母さんのことを知っている人と出会うだけで、ぐっと距離は近くなります。

ここで注意点が一つあります。ダメですよ。「あなたのお父さん、お酒飲んだらなく、大変なんや……」。そういう陰口は言ってはダメです。おたすけやひのきしんの話を教えていただきたいのです。

手を差し伸べて、共に歩むこと

さて、今の学生はどんな気風だと思えますか。私は学生担当委員会で感じるがあります。

一つ目の気風は「人に頼ることができない」です。自分がしたいと思うことを考える前に、どうやったら怒られずに過ごせるかを考えるのです。それは人に「ちょっとこれお願い」というのが言いづらい。自分で何とかしようと思つて、自分の思っている目的地に近づこうとするなら

いいんですが、そこまでの自信もないのです。

二つ目は「人の痛みを知らずに、その場のノリで何でもやっちゃう」ところがある。向こう見ずです。それは今の若い子に限ったことではないですが、人の痛みを知らないまま大きくなっているところがあります。三つ目は「失敗をしない」。言い換えますと「失敗を知らないから、失敗の活かし方を知らない」ということです。

つまりまとめると、自分自身のあり方、主体性を持っていない子が多いということなのです。

なぜこんな話をするかと申し上げますと、先ほどポイント三つ「喜び方」「おたすけに巻き込む」「第三者の声」を挙げましたが、今の若い子たちは主体性がありませんので、「この道を歩んでいこう、よしやるぞ」という気持ちになかなかなりづらいということなのです。

そこで私たちがお道を歩む姿を見せる、そして伝える。さらに大事な点があるのです。それは「手を差し伸べる」ということです。「一緒に歩もう」と手を差し伸べれば、その手をつかむ力は持っています。けれど

も手が差し伸べられなければ、自分からつかもうとはしないのです。そう思いませんか。

前真柱様が丹精について、「ともに歩むことや」とお仕込みくださったことがあります。これはつまり、赤ちゃん、2歳3歳、小学生、中学生、それぞれ歩み方が違います。そしてついに自分の意志でどこかへ行くとしたときに、初めて目的地を知らせてあげなければならぬわけなのです。ともに歩むということは、相手の歩幅に合わせることから始めて、「目的地はあつちだ」と示して初めて「ともに歩む」ことだと私は思案しています。

今年の学生担当委員会の活動方針は、「真にたすかるこの道を、共に歩もう」です。

私が今日お話ししていることは、まさにこのことです。私たちが若い子に「放つておいても成人するだろう」「各々が丹精するだろう」と思っているうちは変わらないです。私たち一人ひとりが、この本島につながる子たちを「さあ、一緒に歩もうよ」という思いで接していただけたらと思います。

この夏も学生生徒修養会高校の

部(学修)を開催いたします。学修に送り出して、学生は何が変わると思えますか？ 信仰熱心になって帰って来ると思われているかもしれませんが、必ずしもそうではありません。では何でしょうか。

一つは、このお道をともに歩む仲間ができます。もう一つは、お父さんやお母さん、教会の会長さんがこのお道を求めて歩んでいること。「答え合わせ」ができるのです。

これは教会や家庭ではなかなかできないことです。親神様、教祖にもたれて、かしの・かりものの理に感謝し、病む人のたすかりを願う。これを実践できる場が学修です。

そこで先生方には、ちょっとだけ勇気を出していただきたいのです。1回「学修に行つてこんか」と声をかけて、「いや、私無理です」と言われたら、次は言いづらいですね。そこを繰り返していただきたいのです。学修1回で人生ガラッと好転した子はいっぱいいるのです。

私の知り合いに、高校3年間毎年学修に誘つても断られ、大学生になって「頼むから1回学修行つてくれ」と頼み、1週間だけならと初めて行つてくれたその子。学修で感

動して帰ってきて、会長さんに何と言ったか。「何で高校の時から言ってくれなかったの?」。いや口酸っぱく言っていたって。それぐらい高校生は受けづらい。でも言い続けていたのだと思います。なぜなら、おちばで必ず変わってくれる。この信念をぜひ先生方に持っていて、声かけしていただきたいです。

教祖の逸話には、若い子に対してのお話も残っています。

松田やすは10代の頃から数年間、教祖の炊事のお手伝いをさせていただきました。教祖はこう仰っています。

「おまえの炊いたものを、持って来てくれると、胸が開くような気がする。」(稿本天理教祖伝逸話篇三三「女房の口一」)

胸が開くとはどういう意味でしょうか。胸のつかえがとれる。心にかかってきた心配事などが解消して、ほっとする意味です。教祖の心配事がなくなるってすごくないですか。このお言葉をいただいたやすさんは、きっとものすごく嬉しかったと思うのです。

また西尾ナラギクが糸紡ぎの御用をして、一つ分できあがったところ、教祖がお越しになって、ナラギクの

肩をポンとおたたきになり、その出来上がったものを三度お頂きになった、という話があります。そのとき教祖は

「ナラギクさん(註、当時十八才)、こんな時分には物のほしがる最中であるのに、あんたはまあ、若いのに、神妙に働いて下されますなあ。この屋敷は、用事さえする心

なら、何んぼでも用事がありますで。用事さえしていれば、去のと思っても去なれぬ屋敷。せいだい働いて置きなされや。先になつたら、難儀しようと思たとて難儀出来んので。今、しっかりと働いて置きなされや。」(稿本天理教祖伝逸話篇三七「神妙に働いて下されますなあ」)

これ、難儀できんということとは、幸せになるということですよ。おちばで、教祖の近くで伏せ込めば、幸せにしかないということですよ。

教祖も若い子に分かりやすく、相手の立場に立って、わざわざ「物のほしがる最中であるのに」とまでおっしゃっているわけです。ナラギクは強く印象に残っただろうと思います。そう考えると、若い子が教会にひのきしんに來てくれた。「お疲れさん。またね」だけでは、相手は

満足しないと思うのです。相手の立場に立って、今どんな心でいるのかこちらが意識して声をかけ、そしてひのきしんをする。または一緒にお願いづとめをしよう、ということによって信仰が伝わると思うのです。

一昨年の学生担当者大会において真柱様から次のメッセージをいただきました。

「学生会に集まってくる学生たちは、みんな因縁あつてお引き寄せいただいた、大切なこの道の後継者であります。そして皆さんは、そうした学生の育成を心がけておられるはずであります。学生たちの成人を願って、彼らと向き合い、心を込めて親神様、教祖の親心を伝えて、幸せにつながるこの道の通り方を教えることに力を尽くしてもらいたいと思います。」

いんねんあつて本島につながるって若い子たちがいます。どうぞ学生さんたち、その若い子たちに声をかけ、真にたすかるこの道を、共に歩む姿勢をお示しいただけたらと存じます。

最後までお聞きくださいまして誠にありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

訃報

宮路實子姉



宮路實子姉(實峰分教会初代会長)

は去る4月25日午後3時12分お出直しになりました。享年87歳。

葬儀はみたまうつしが4月28日午後6時より、告別式が翌29日午前10時より、都城市内の葬祭場において、向所隆文赤峰分教会長斎主のもと執り行われました。みたまうつしに大教会長、告別式に竹中敏一宮崎教区長が参列されました。

宮路實子姉略歴

昭和14年10月8日生まれ。昭和32年6月21日、おさづけの理拝戴。同年6月27日、修養科第192期修了。昭和40年3月18日、教会長資格検定合格。同年4月16日、教人登録。立教155年11月22日、大教会神殿奉仕人。立教158年1月26日、實峰分教会任命・移転・改称・恒例祭日変更願。實峰分教会初代会長拝命。立教163年1月22日、婦人会本島支部委員。立教185年8月25日、實峰分教会長辞職。教会長在職期間27年7ヶ月間。

事情はいづ

(立教189年5月26日)

雅峰分教会

任命願

新任教会長 宇野康司うのやすし

臨時祭典願

奉告祭 立教189年6月13日

ワイルク教会

任命願

新任教会長 酒井ギヤリーさかいみちたか道隆

移転願

移転地

91-220 HOOWEHI PLACE, EWA BEACH, HI, USA

改称願 キナオシ教会

(KINAOLE CHURCH)

恒例祭日変更願

春季大祭 一月第一土曜日
秋季大祭 十月第一土曜日
月次祭 毎月第一土曜日

所属変更届

新所属 カカコ教会

臨時祭典願

鎮座祭 立教189年7月2日
奉告祭 立教189年7月3日
以上

おさづけの理拝戴

(立教189年4月分)

本千代 水本雄喜

鶴峰 本問勝敏

【計2名】

修養料第二〇二回修了

(立教189年4月27日修了)

本千代 吉田貴慶

本千代 水本雄喜

【計2名】

教人資格講習会修了

(立教189年4月10日付)

吉峰 船木広文

【計1名】

をびや許し

(立教189年4月分)

本部 津久井しのぶ

本小倉 重森佳代

雄福峰 松井恵子

【計3名】

証拠守り下附

(立教189年4月分)

1 本陽山1、本千嘉1、マウイ

【計3名】

大教会長動向

▼6月(予定)▲

1日、本部神殿奉仕当番

3日、香川教区役職委員会議

7日、本山海分教会巡教

13日、雅峰分教会

4代会長就任奉告祭

15日、本浜分教会巡教

16日、鶴峰分教会

2代会長就任奉告祭

22日、大教会月次祭執行

24日、大裏地区

田植ひのきしん

24日、修養料門出まなび

25日、かなめ委員会

26日、本部月次祭

27日、かなめ会

29日、7月10日、ハワイ巡教

以上

誕生おめでとう

Kulie Sakura Keaulana

(クーリア・サクラ・ケア

ウラナ)さん

(2026年4

月24日生まれ、

ラナイ教会)



レッツゴー青年会 in 熊本

青年会本島分会(伊東賢太

郎委員長)では、地域の教会

へ出向き、ひのきしんを通し

て会員相互の交流をはかる

レッツゴー青年会を、肥後八

峰分教会(熊本県八代市)にお

いて5月16・17日の日程で実

施。青年会員10名、OB2名



が集まり、神殿廊下床張り替
えを行いました。

6月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈本部食堂ひのきしん〉

- 期間：6月1日～15日
- 派遣教会：本京分教会

〈大教会・食堂ひのきしん〉

- 期間：6月21日～22日
- 派遣教会：本浜

〈話所・食堂ひのきしん〉

- 期間：6月25日～26日
- 派遣教会：本中国、本九

大教会6月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：6月22日大教会6月月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：6月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。





すき間の おはなし

「丸亀うちわ」の伝統と技

香川県丸亀市は全国90%以上のシェアをもつ「うちわ」の生産地であることご存知でしょうか？ うちわは昔から、涼をとるだけでなく、料理を冷ます、炊事・火起こし、日射しをよける、虫をはらうなど、生活必需品としてさまざまな用途に使われてきました。ところが最近は生活が便利で快適になるにつれ、うちわを使うことが少なくなってきたような気がします。

あまりに身近ゆえ気づかなかった民具としての「丸亀うちわ」を温ねて、「丸亀うちわミュージアム」に行ってみました。

丸亀うちわのルーツは天明年間(1781~88)、参勤交代が行われていた当時、豊前中津藩の足軽たちがしていたうちわ作りの内職を、丸亀京極藩の足軽たちも見習い、江戸滞在中の小遣いや帰国時の土産代にあてたのが始まりとされ、さらに丸亀は金刀比羅参りの港町という土地柄、参詣人の手軽なお土産として需要が高まりました。

ミュージアムでは、職人が実際に製作するようすを間近で見学することができます、さらに直接話を聞くことができます。筆者が行ったときはマイスター河野竹克氏のお話をうかがうことができました。

「伊予竹に土佐紙貼りてあわ(阿波)ぐれば讃岐うちわで至極(四国)涼しい」と歌い継がれる丸亀は、うちわの材料すべてを近隣で揃え、47にのぼる製造工程はすべて職人の手仕事によっていて、形や

図柄、種類も用途に合わせて多種多様なことを知りました。平成9年に国の伝統工芸品に指定されています。

実際に丸亀うちわを扇いでみると、風の形もさまざまあることに驚かされます。

じっくり選んだお気に入りの一本を手には、エアコンのない夏の教会神殿奉仕当番のぞみたいと思いました。(むかいじよ)

布教部報告(5月分) 数字は本年の提出回数です

統計(4月1日~30日)

にをいがけ名簿提出教会(5月)					
本島	5	本千治	5	本九台	5
樺太	5	攝津	5	赤峰	5
本倉岡	4	攝泉	5	雅峰	5
本室	5	本太	5	神峰	5
渋谷	5	本菽	3	豪峰	5
代々木	5	安藝本中	4	倉峰	5
本萬代	5	本備前	5	大雄峰	3
本京	3	本迪	5	雄福峰	5
本東	2	本府中	5	栄森峰	5
本草	5	沖浦	5	栄東峰	3
本恵明	4	馬木尾	1	實峰	4
本静濱	4	本清水	4	大隅聖峰	5
本静森	3	崇徳	5	大駿峰	3
本日米	3	与島	4	別峰	5
本浜	3	本高	3	大英峰	5
本米	4	本宣道	4	鶴峰	4
本米里	4	本九	5	都峰	4
本米浜	5	本陽山	5	仙峰	5
本千代	5	本肥港	5	S.P.	2
本千賀	2	本新田	5	ハリウッド	4
計60教会			639名		

おさづけ取次報告教会(5月)					
本島	5	本千治	4	赤峰	5
樺太	5	本平濱	3	雅峰	5
本倉岡	5	攝津	5	神峰	5
本陸奥	4	攝泉	5	豪峰	5
本樺	5	本太	5	倉峰	5
本室	4	本菽	3	大雄峰	4
渋谷	5	本岡	3	雄福峰	5
代々木	5	本福	5	栄森峰	5
本萬代	5	安藝本中	4	栄星峰	5
本京	4	本備前	5	栄東峰	2
本東	2	本迪	3	實峰	2
本道盛	5	本府中	5	大隅聖峰	5
本草	5	沖浦	5	大松峰	4
本恵	5	馬木尾	1	大駿峰	5
本恵明	4	崇徳	5	別峰	5
本静濱	5	与島	5	大英峰	5
本日米	3	本勇	4	鶴峰	4
本浜	5	本高	5	都峰	5
本米	5	本陽山	5	S.P.	4
本米臺	5	本肥港	5	ハリウッド	4
本米里	4	本新田	5		
本米浜	5	本九	5		
本千代	5	本			
計67教会			2,023回		

教会名	初席	中席	聖壇	修養料	教人講習	検定講習
本室	2	2				
本米		1				
本千			1	2		
本那		2				
本波		1				
本亀		1				
本小		1				
本倉					1	
本吉		2				
本倉	2	1				
本森		1				
本信		1				
本鶴	1	3	1			
工又・シー		1				
カリフォルニア	2					
合計	7	15	2	2	1	0

ろくぢ会

(立教100年5月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・幹太郎・好次・昇太△片山秀明
 △長尾真実・幸太 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼崇徳分教会△高垣みなみ△高垣嘉一 ▼本高分教会 ▼安藝本中△池田こみち▼ポートランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次
 ご芳志に厚くお礼申し上げます



4代会長片山昇 40年祭

【総務部】

- 本島大教会 4代会長片山昇 40年祭
- 日時：10月21日(水)午後1時執行
 - 帰参報告書(5/22教会長会議にて配布)を7月22日まで、直轄教会ごとまとめてご提出ください。
 - 次回9月に大教会での食数、船便などをお尋ねいたします。

おおうら 大裏地区田植えひのきしん

【伏せ込みひのきしん係】

- 内容：大裏地区田植えひのきしん
- 日時：6月24日(水)
午前9時～ひのきしん終了まで
- 送迎：8時50分詰所玄関前より出発
- 場所：大裏地区(天理市豊田町)
- 服装：Tシャツ、短パン(海水パンツ)、サンダル、帽子
※濡れても汚れてもよい服装
- 作業内容：田植えなど
- 参加対象：教会長夫婦および希望者
- 補足：ひのきしんは内容によって午前中のみになる場合もあります。食事(当日の昼食含む)、宿泊の予約は各自詰所へお申込みください。
- 担当者：岡崎八十則・永島宗行
- 参加希望者は大教会ならびに詰所事務所の記入用紙にご記入いただくか、担当者までご連絡ください。

にをいがけ・おさづけ Web 報告

【布教部】

- 「にをいがけ名簿」「おさづけ取次報告」の新しい入力フォームができました。
- Web報告の締切は毎月20日(4月は12日)です。

<https://www.honjima.com/>

こどもおちばがえり

【教会本部】

- こどもおちばがえり要項
- 期間：2026年7月27日～8月3日
 - 要項：こどもおちばがえりオフィシャルサイトをご覧ください。
 - 申込キーについて：5/22各教会に「申込キー通知書」を配布しています。カレー食の申込と帰参予定人数はインターネットでの事前申込となります。申込責任者登録時に申込キーを入力してください。

鼓笛隊夏季合宿

【本島団鼓笛隊】

- 第116回本島団鼓笛隊夏季合宿
- 期間：7月26日(日)～7月31日(金)
 - 会場：本島詰所
 - 対象：小学1年生～高校3年生までの男女
 - 内容：7/26おつとめ総会、7/29前夜祭、7/30鼓笛オンパレード&鼓笛お供演奏、こどもおちばがえり諸行事参加
 - 参加費：6,500円(宿泊費・食費含む)、送迎費2,000円(片道・往復問わず一律)
 - 服装：練習着(Tシャツ・短パン・帽子・ポシェット)を貸与。洗濯は26日～29日まで実施
 - 携行品：白靴、健康保険証のコピー、下着、靴下、パジャマ、タオル、洗面道具、入浴道具、室内運動靴、常備薬、マスク
 - 小学1～3年生：男女ともドリーム隊ユニフォームの下に着る白タンクトップと白パンツ各2枚(ボクサータイプ不可)
 - 小学4年生以上：半袖Tシャツ2枚(本番用)、楽譜、ファイフ(持っていない場合は1,000円にて用意します)
 - 申込締切：7月10日まで各分隊担当までご連絡ください
 - 相談窓口：佐藤道子 090-7570-4807
 - 本島鼓笛隊公式LINEでも受け付けております。

MOMOの会

【婦人会本島支部】

- MOMOの会「女鳴物勉強会」
- 期日：7月30日(木) 31日(金)
 - 会場：本島詰所
 - 内容：女鳴物勉強会(琴、三味線、胡弓をお選びいただきます。初めての方も安心してご参加ください)
 - 持ち物：琴爪(貸出しもあります)
 - 申込方法：MOMOの会担当者に直接ご連絡いただくか、QRコードを読み取り公式LINEの申込フォームからお申込みください
 - MOMOの会担当者：永島すすみ(渋谷)、平井由紀子(樺太)、片山美穂(本編)

女子青年名簿お願い

【婦人会本島支部】

- 本年11月1日に開催されます「女子青年大会」を目指し、女子青年名簿を作成し、参加呼びかけいたします。
- 記入用紙(5/22教会長会議にて配布)にご記入の上、7月22日まで、直轄教会ごとまとめて提出ください。
- 該当者がいない場合でも提出をお願いします。
- 対象年齢：16歳から30歳前後までの未婚女性

学生生徒修養会 高校の部

【天理教学生担当委員会】

- 期間：令和8年8月9日～8月13日
- 受講対象：高等学校に在学し、全期間受講できる者
- 募集人員：800名(男女各400名)
- 内容：講話、グループワーク、レクリエーションなど。※別席を受けられる方は9日午前席を運んでください。
- 集合：8月9日正午(昼食を済ませしてからご集合ください)詰所にて受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。
- 解散：8月13日午後2時30分頃(予定)
- 受講御供：10,000円
- 申込期間：5月25日～7月25日
- 申込方法：要項をダウンロードしてご確認ください。
- お問合せ先：雲庵春彦 090-2515-8039 横関茂治 090-1138-1690